

自薦句

令和五年四月く令和六年三月の代表作を紹介します。

- ・ 菊の香や止まりしままの花時計 廣崎龍哉
- ・ 蛸や米研ぐ妻の背の丸く 石崎玄舟
- ・ 漆黒の広き板の間離飾 大場繁好
- ・ 伊豆三浦岬にたなびく霞かな 各務 清
- ・ 鳩追ふ子 子を追ふ母の夏帽子 島村忠男
- ・ 恙なき米の祝ひの初湯かな 杉村良月
- ・ 遙るかなる富士を横ぎる夏つばめ 丹波南洋
- ・ 父と子の影絵が笑ふ良夜かな 高橋尤子
- ・ 秋深し離れて遠き山と川 二山たか志
- ・ 施肥終へて納めの畑や山眠る 野木未希男
- ・ 隧道を抜けて棚田や山笑ふ 桧垣邦夫
- ・ 風光る磯の香りの稚児ヶ淵 増田かつを
- ・ 湯上りの身を揺り椅子に虫の宿 宮沢 進
- ・ 柿若葉古希の手習ひピアノ弾く 安田けんじ
- ・ 耳澄ます楠の葉擦れや雲の峰 山口一江
- ・ 人波の弁天橋や春時雨 山本達也
- ・ 風そよぐ銀に輝くすすきの穂 渡部よしまさ